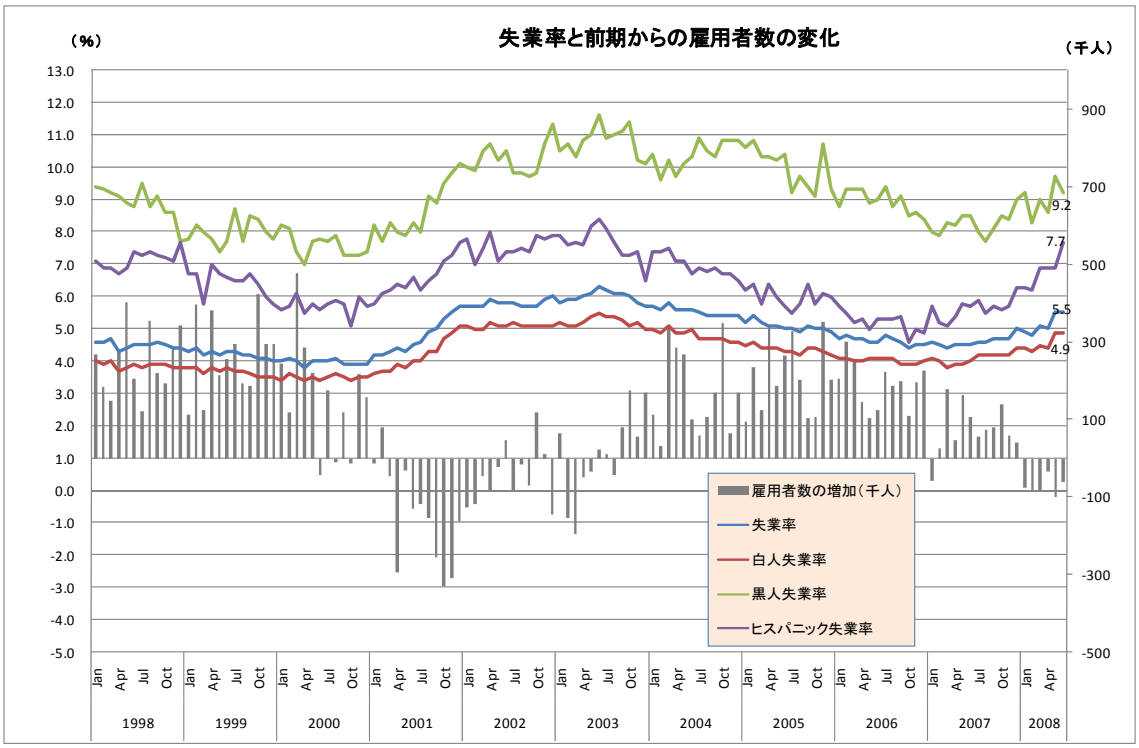
米国経済点描（2008.7.04）

～2008年6月の失業率～

7月3日に米国労働省労働統計局（ＢＬＳ）が公表した世帯調査に基づく2008年6月の失業率（季節調整済み）は、前月と同じ5.5%と横ばいであった。また、同調査に基づく5月の就業者数の暫定値は、1億4589万1千人で、前月より15万5千人減少し、3ヶ月連続の減少となった。

一方、事業所調査に基づく非農業部門の雇用者数（industry payroll employment）も、季節調整済みの暫定値で6万2千人減少した。これで雇用者数の減少は本年1月から6ヶ月連続となった。その結果、ピークとなった昨年12月からは48万8千人の減少となった。

ヘルスケアサービスと鉱業では雇用増となったが、建設、製造業、商業の雇用減が大きく、また専門サービスでも減少（専門・技術者は微増）するなど、失業はますます広がりをみせている。なお、鉱業での雇用増は、資源高を背景にしていると思われる。



○お問合わせ先○
株式会社アクシスリサーチ研究所　〒107-0052　東京都港区赤坂渡辺ビル４Ｆ
TEL 03-5572-7770 FAX 03-5572-7771　E-mail contact(“atmark”)axis-research.co.jp

Copyright©Axis Research Institute, Inc.